

# 編集室

\* 本年も残り少なくなりましたが、読者の皆様におかれ  
ては、いかがお過ごしでしょうか？ 会誌編集の方も、進行  
中の特集企画の編集や、新たな特集の検討・立案等で、まだ  
まだ多忙な毎日です。私が担当致しておりますC分野にお  
いて企画を進めておりました小特集の2企画も、ようやくめ  
どがつかまして、近々、皆様のお手元へお届けすることが  
できる予定であります。これも、毎度毎度のことながら、執  
筆者の皆様の御協力と、編集委員や事務局の皆様の御苦勞の  
賜物であり、暖かく見守って下さる読者の皆様も含めまして、  
深く感謝致しております。

\* さて、手掛けておりました特集企画のめどがつくころ  
には、また、新たな特集の検討を開始しなければならない時  
期となります。

\* 特集の内容には、ある領域でホットな話題になりつつ  
ある研究、過去の技術や研究を省みて将来を展望するもの、  
異なる分野との融合や境界領域に関する研究など、様々な切  
り口が考えられますが、いずれにせよ、技術や研究の動向を  
把握しながら、読者の皆様の多くに興味を持って頂けるよう  
なものを立案し、編集作業を進めていく必要があるかと思  
います。

\* 2009年を省みてみますと、技術や研究の動向はどう  
だったのでしょうか？

\* 技術や研究の動向そのものとは異なりますが、電子情  
報通信技術に関連した話題の一つとして、2009年ノーベル

物理学賞が挙げられると思います。既に御存じのように、「光  
ファイバによる情報通信への貢献と CCD センサの発明」と  
いう授賞理由で、チャールズ・カオ氏、ウィラード・ボイル  
氏、ジョージ・スミス氏の3人に贈られます。現在の膨大な  
画像情報が飛び交うインターネットを支える二つの技術であ  
り、それぞれ、本学会の対象分野でもあります。

\* もう一つの大きな話題として、我が国における競争的  
研究資金の制度が大きく変わるかもしれない、「最先端研究  
開発支援プログラム」が挙げられるのではないのでしょうか。  
従来制度における問題点の改善を目指し、研究者を最優先し  
た制度を目指したものとして評価に値する一方、公募から審  
査までが従来になく短期間で、拙速極まりないであるとか、  
政権交代により、公募時とは総額等の運用方針が変更されて  
しまうとか、問題点を指摘する旨もあるかと思われませんが、  
従来制度における問題点の改善を目指す取組みは、継続して  
いって頂きたいと思う次第です。

\* 話題を、電子情報通信にかかわる技術や研究の動向に  
戻しますと、会誌の「ニュース解説」欄に掲載されたものは、  
ある分野でのトピックであるものですし、それぞれの分野に  
おいて、本年の数多くのトピックや、それも受けての技術や  
研究の動向があったかと思えます。

\* 年末で、何かと慌ただしく忙しい時期でもありますが、  
技術や研究の動向も含めて本年を省みてみるのもよいかもし  
れません。

(編集特別幹事 安藤 淳)